

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンス					
学年		2年					
科目名		経営戦略					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	鹿谷克巳						
到達目標							
・企業活動を理解し、戦略の全体像を踏まえた上で、経営戦略に関する基本的な知識を身につける ・企業戦略、事業戦略など主要な基礎的な理論や論点を理解する ・経営戦略の知識を用い、具体的な事例や身近な事柄にどのように活用されているのか、実践的な理解を深める							
講義概要							
・企業戦略の全体像を常に俯瞰しながら、個別論点についてわかりやすい講義とする ・講義は理論の説明と共に、実際の企業事例を提示して、関心を高める内容とする ・毎回パワーポイント等で作成した講義レジュメを配布し、事後学習にも活用してもらう ・毎回の講義冒頭に、前回講義の振り返りを行い、学習内容の定着化を促す							
学修成果							
・企業戦略の基礎的な内容を理解し、論理的かつ戦略的な思考パターンを身につける ・日々の行動において、目標の設定、課題の抽出、解決策の検討を心掛ける態度を身につける							
事前学習							
前回講義の復習							
事後学習							
当日講義の復習							
授業計画							
第1回	オリエンテーション:経営戦略とは何か 企業活動の概要、経営戦略の全体像、論理的思考法						
第2回	企業戦略(成長戦略)について 前編 企業戦略とは何か、ドメイン、成長ベクトル、多角化戦略						
第3回	企業戦略(成長戦略)について 中編 製品ライフサイクル、製品ポートフォリオマネジメント、外部組織との連携						
第4回	企業戦略(成長戦略)について 後編 リソースベースドビュー、技術経営・イノベーション、企業の社会的責任、企業統治						
第5回	事業戦略(競争戦略)について 前編 事業戦略とは何か、業界構造の分析、競争回避の戦略						
第6回	事業戦略(競争戦略)について 後編 3つの基本戦略、バリューチェーン、競争地位別戦略						
第7回	機能別戦略について 営業戦略、マーケティング戦略、人事戦略、財務戦略						
第8回	経営理念と経営ビジョンについて 経営理念、経営ビジョン、ミッション・ビジョン・バリュー、企業ブランド						
第9回	環境分析について 内部環境分析、外部環境分析						
第10回	経営計画と経営管理について 経営計画、経営管理、意思決定アプローチ、						
第11回	経営戦略と組織について 戦略と組織構造、組織行動、人的資源管理						
第12回	中小企業の経営戦略 中小企業の現状、課題、展望						
第13回	経営戦略論のラップアップ講義 前編 期末試験に向けた復習解説						
第14回	経営戦略論のラップアップ講義 後編 期末試験に向けた復習解説						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		70%					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30%					
その他							
教科書							
毎回講義レジュメを配布							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンスコース					
学年		2年					
科目名		ビジネスマナーⅢ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員		井上 由美子					
到達目標							
①仕事を通して社会貢献する意識を高める。②外国人実務能力検定3級取得を目指し、日本で働くための知識を積み上げる。 ③メールを使って企業の人事担当者とやり取りできる。							
講義概要							
①1年次同様、少人数チームを編成し、実践的に社会人として必要なビジネスマナー知識を積み上げる。②授業に出席する際はビジネスカジュアルを実践し、社会人としての身だしなみを整える。③面接での会話を正しい敬語で行えるよう、敬語の反復学習を行う。④企業訪問の際の立ち振る舞いや受付でのマナー学ぶ。							
学修成果							
①自信を持って堂々と企業人とやり取りできるようになる。②求人票の見方や企業文化を学ぶことで、就職活動への意欲を高める。							
事前学習							
ビジネスマナーの基本のき、報告・連絡・相談の実践訓練として、毎回実施する朝礼で行う1分スピーチの話題を見つけ話せるように準備する。							
事後学習							
①授業で配布したプリントの音読 ②プリント掲載の漢字、用語をノート1ページ分書く。							
授業計画							
第1回	朝礼 2年次の学習予定と目標設定						
第2回	朝礼 社会人としての意識 働く目的 企業が求める人材イメージ						
第3回	朝礼 話の伝え方 PREP法を体験する						
第4回	朝礼 日本の雇用制度 求人票の見方						
第5回	朝礼 日本の企業文化 仕事の服装 ビジネスカジュアル・オフィスカジュアルとは						
第6回	朝礼 ビジネス文書とメールの書き方						
第7回	朝礼 ビジネスで使用する携帯電話のマナー						
第8回	朝礼 会社訪問、受付での立ち振る舞い ロールプレイング						
第9回	朝礼 敬語演習① 書く敬語						
第10回	朝礼 敬語演習② ビジネス文書での敬語						
第11回	朝礼 敬語演習③ 会話敬語						
第12回	朝礼 敬語演習④ 会話敬語						
第13回	朝礼 日報・報告書の役割と書き方						
第14回	朝礼 各種資料の引用・要約に関するルール 著作権						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
教科書は使用せず、適宜プリントを配布							
参考書							
PATF外国人実務能力検定3級公式テキスト 留学生向け							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンスコース					
学年		2年					
科目名		ビジネスマナーⅣ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	井上 由美子						
到達目標							
①社会人に向けての準備期間と位置付け、入社後に必要となるビジネスマナーが身に付く。②PATF外国人実務能力検定3級に合格する。							
講義概要							
2年間の総仕上げとして、大人のマナーについて学習する。日本の冠婚葬祭の基礎知識や食事のマナーが、ビジネスにどのように繋がるかといった視点を持ち、人として高評価を得られるような知識を積み上げるとともに、日本社会への理解を深め人間力を磨く。日本の冠婚葬祭を出身国と比較し、多文化共生、異文化理解を深める。							
学修成果							
社会人として、大人として、知っていれば失敗を防ぐことができるマナーや常識の知識が身に付く。日本の行事やしきたりがビジネスにつながることを理解する。							
事前学習							
報告・連絡・相談の実践訓練として、毎回実施する朝礼で行う1分スピーチの話題を見つけ話せるように準備する。							
事後学習							
①授業で配布したプリントを音読する。 ②プリント掲載の漢字、用語をノート1ページ分書く。							
授業計画							
第1回	朝礼 ビジネスマナーⅠ・Ⅱ・Ⅲの振り返りと今後の課題確認 目標設定						
第2回	朝礼 来客対応 応接室・会議室・エレベーターなどの席次						
第3回	朝礼 名刺交換実習 名刺の取り扱い						
第4回	朝礼 会議の準備と流れ 会議の種類						
第5回	朝礼 議事録の書き方						
第6回	朝礼 情報セキュリティ 貸与品の取り扱い						
第7回	朝礼 日本の冠婚葬祭知識とビジネスのつながり						
第8回	朝礼 「冠」のしきたり 賀寿 「祭」のしきたり						
第9回	朝礼 「婚」のしきたり 「葬」のしきたり フォーマルウェアの基礎知識						
第10回	朝礼 日本のお正月 出身国のお正月						
第11回	朝礼 食事のマナー 食文化と歴史 食事とビジネスのつながり						
第12回	朝礼 和食のマナー 日本料理の基礎知識 箸使いの作法						
第13回	朝礼 西洋料理のマナー 立ち居振る舞いとカトラリーの使い方						
第14回	朝礼 中華料理のマナー						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜プリントを配布							
参考書							
PATF外国人実務能力検定3級公式テキスト 留学生向け							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		プレゼンテーションⅢ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	平川綾音						
到達目標							
就職活動において、自身の強みや志望動機などを明確かつ論理的に表現できる力を身につける。 企業研究を通じて得た情報を適切に整理し、聞き手に分かりやすく伝える発信力を養う。 質疑応答において相手の意図を正確に捉え、簡潔かつ的確に応答する力を身につける。							
講義概要							
今講義では、就職活動に必要な自己表現力や発信力を高めることを目的とします。 自己PRや志望動機の作成、企業研究の方法などを学び、実践的なスキルとして定着させていきます。 1年次のグループ発表をもとに、2年次では個人発表を中心に取り組み、自らの言葉で伝える力を強化します。また、質疑応答にも対応できる力を養い、人前で自信を持って話す姿勢と実践力を育成します。							
学修成果							
自己理解と自己表現の力が高まり、自分の考えを論理的に構成し、自分の言葉で発表できるようになる。 企業や業界に関する情報を自ら収集・整理し、聞き手に分かりやすく説明する力が身につく。 発表や質疑応答の経験を通じて、就職活動における実践的なコミュニケーション能力が向上する。							
事前学習							
自己PRや志望動機作成のための情報収集と発表準備							
事後学習							
自身の発表を振り返り、改善点を見つける							
授業計画							
第1回	前期通常講義の内容(授業の進め方・評価)について 自己PRの目的と構成について						
第2回	発表: 自己PR① フィードバック						
第3回	自己分析 自己PR作成						
第4回	ペアやグループでの発表 ブラッシュアップ						
第5回	発表: 自己PR② フィードバック						
第6回	志望動機の基本構成について自己理解 自己理解						
第7回	企業研究の視点と方法 グループワーク						
第8回	志望動機の文章化 発表準備						
第9回	企業研究発表① フィードバック						
第10回	志望動機発表① フィードバック						
第11回	模擬面接① フィードバック						
第12回	模擬面接② フィードバック						
第13回	模擬面接③ フィードバック						
第14回	発表の総評及び期末試験について						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
なし(適宜資料配布)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		プレゼンテーションⅣ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	平川綾音						
到達目標							
ビジネスシーンで活用できる基本的なビジネス文書の知識と表現力を習得する。 グループでの協働を通して他者との意見調整・役割分担・情報整理能力を身につける。							
講義概要							
今講義では、日本語でのプレゼンテーション能力の育成を目的とし、グループ・個人それぞれの発表活動に取り組む。 プレゼンテーションの基本的な構成や話し方の技術、ビジネス文書の基礎を学びながら、段階的に「伝える力」を強化していく。 また、多国籍な環境や社会で働くうえで必要となる表現力や協働性を、実践的な活動を通して身につける。							
学修成果							
プレゼンの構成を理解し、分かりやすく発表することができる 就職・進学後にも役立つ、基本的なビジネス文書を正しく書くことができる 多文化的な視点を取り入れ、自分の考えを柔軟に発信する力が身に着く							
事前学習							
情報収集と発表準備							
事後学習							
個人・チームでの発表を振り返り、改善点を見つける							
授業計画							
第1回	後期通常講義の内容(授業の進め方・評価)について グループプレゼンの基本						
第2回	話す技術の基本 印象に残る話し方について						
第3回	グループ活動① 構成・発表準備						
第4回	グループ発表 フィードバック						
第5回	ビジネス文書①						
第6回	ビジネス文書②						
第7回	グループ活動② 構成・発表準備						
第8回	グループ発表 フィードバック						
第9回	個人プレゼンの基本 伝える力、話す力について						
第10回	発表準備:構成、原稿作り						
第11回	発表準備:原稿資料完成、発表準備						
第12回	最終プレゼンテーション①						
第13回	最終プレゼンテーション②						
第14回	発表の総評及び期末試験について						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他							
教科書							
なし(適宜資料配布)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三浦 文貴						
到達目標							
外国人が日本で働く上で必要になる、丁寧な日本語を身につけ、更に語彙力を向上させ、円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築ができるようにする。							
講義概要							
BJT対策に用いるテキストやニュースなどを用い、ビジネスで通用する日本語力を学ぶ。 より自然で、より丁寧な表現を身につけ、ビジネスにおけるあらゆる場面でふさわしい適応ができるように確認する。							
学修成果							
敬語を用いて、職場やビジネスの場にふさわしい表現で円滑に会話ができるようになり、業務に関連する専門用語や日常業務で頻出する日本語表現を習得し、多様な場面で適切な言葉を選んで使用できるようになる。また、自分の考えを分かりやすく丁寧に日本語で伝える能力と、相手の話を正確に理解し適切に応答する能力を身につける。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
各回の内容に合わせた復習（目安1回30分）							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(授業の進め方や目的の確認など)						
第2回	現在の日本語能力の確認テスト(語彙・漢字)						
第3回	語彙・漢字 1						
第4回	語彙・漢字 2						
第5回	グループディスカッション						
第6回	グループディスカッション						
第7回	ニュース聴解1						
第8回	ニュース聴解2						
第9回	ニュース聴解3						
第10回	聴読解1						
第11回	聴読解2						
第12回	聴読解3						
第13回	聴読解4						
第14回	模擬問題と復習						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
ビジネス日本語オール・イン・ワン ビジネスケースで学ぶ日本語							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	三浦 文貴						
到達目標							
外国人が日本で働く上で必要になる、丁寧な日本語を身につけ、更に語彙力を向上させ、円滑なコミュニケーションと信頼関係の構築ができるようにする。							
講義概要							
前期の学習を踏まえながら、BJT対策に用いるテキストやニュースなどを用い、ビジネスで通用する日本語力を学ぶ。より自然で、より丁寧な表現を身につけ、ビジネスにおけるあらゆる場面でふさわしい適応ができるように確認する。							
学修成果							
敬語を用いて、職場やビジネスの場にふさわしい表現で円滑に会話ができるようになり、業務に関連する専門用語や日常業務で頻出する日本語表現を習得し、多様な場面で適切な言葉を選んで使用できるようになる。また、自分の考えを分かりやすく丁寧に日本語で伝える能力と、相手の話を正確に理解し適切に応答する能力を身につける。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
各回の内容に合わせた復習（目安1回30分）							
授業計画							
第1回	オリエンテーション(授業の進め方や目的の確認など)						
第2回	現在の日本語能力の確認テスト(語彙・漢字)						
第3回	語彙・漢字 1						
第4回	語彙・漢字 2						
第5回	グループディスカッション						
第6回	グループディスカッション						
第7回	ニュース聴解1						
第8回	ニュース聴解2						
第9回	ニュース聴解3						
第10回	聴読解1						
第11回	聴読解2						
第12回	聴読解3						
第13回	聴読解4						
第14回	模擬問題と復習						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他							
教科書							
ビジネス日本語オール・イン・ワン ビジネスケースで学ぶ日本語							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	高谷俊祐						
到達目標							
観光英語検定3級の合格を第一の目標とする。また、観光英語表現を身につけることで、空港・ホテル・レストラン・観光場面における適切な英語対応をすることができ、観光業界をはじめとするサービス業界で活躍ができる。							
講義概要							
観光英語検定3級の合格を目指し英語学習をする。目標を明確にすることで、英語の基礎学力をアップさせ、特に観光場面における英語表現をすることができるようになる。							
学修成果							
空港やホテル、レストラン、観光場面における適切な英語表現ができる。それによりサービス業界において外国人客相手に円滑なコミュニケーションを取れる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	講義概要：観光英語検定3級の合格基準の確認、「サービス業界」における仕事イメージの形成						
第2回	ブレースメントテスト(観光英語検定3級過去問題とFB)						
第3回	英語表現①(空港における対話場面)						
第4回	英語表現②(ホテルにおける対話場面)						
第5回	英語表現③(レストランにおける対話場面)						
第6回	英語表現④(観光における対話場面)						
第7回	英語表現⑤(ショッピングにおける対話場面)						
第8回	英語表現⑥(交通機関における対話場面)						
第9回	英語対応表現①(問題と苦情処理)						
第10回	英語対応表現②(謝罪と依頼)						
第11回	英語対応表現③(敬語表現)						
第12回	観光英語検定3級リスニング問題ポイント対策						
第13回	観光英語検定3級筆記問題ポイント対策						
第14回	総復習テスト(観光英語検定3級過去問題とFB)						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
ベーシック観光英語 English for Tourism -Basic-(著:観光英検センター、出版社:三修社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		外国語演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
接客に適した人材とは何かを目標として、マナーや外国語等を複合的に学習し、実践レベルでの活用ができる人材育成をすることが目標となっている。							
講義概要							
学習したビジネス知識を実践で活用することでビジネス学習のつながり、学習意欲の向上、社会人としてのイメージ形成をすることが狙いである。テーマを「接客業」に焦点を当てて、マナー、外国語、コミュニケーションスキル等を高める内容となっている。							
学修成果							
ホスピタリティー、ビジネスマナー、場面に応じたコミュニケーション力、外国語など複合的なビジネス知識及びスキルの向上、仕事における自身のキャリアイメージを持てる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	ホスピタリティマインド①おもてなしの心とは						
第2回	ホスピタリティマインド②WINWINの関係を作るとは						
第3回	課外活動①:企業人交流(ホテル企業社員の講話)						
第4回	業界分析:接客業界の現況と求められる人材とは						
第5回	接客マナー①接客時に適切な立ち振る舞いと言葉遣い						
第6回	接客マナー②レストラン応対時の流れ及びマナー						
第7回	課外活動②:高級ホテルでのランチビュッフェ体験						
第8回	接客外国語①英語による接客会話及び文化習得						
第9回	接客外国語②中国語による接客外国語及び文化習得						
第10回	接客外国語③ベトナム語による接客外国語及び文化習得						
第11回	海外活動③:多国籍学生との外国語交流実践						
第12回	場面別ロールプレイング①基本対応と良い印象の与え方						
第13回	場面別ロールプレイング②クレーム対応について						
第14回	接客コンテスト						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		卒業演習 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
卒業研究の意味と目的を理解し、事実に基づいた信頼性のある情報の収集方法を知り、収集した情報を精査し、論拠に基づく文章構成ができるようになる。							
講義概要							
本講義では卒業研究シナリオ作成に向け、研究テーマ選定のためのアプローチ方法やシナリオ作成にあたっての基本ルールについて説明し、実際の文章作成を通し書き方の基本を身につける。講義の中ではこちらより選定したテーマに沿って論文作成の基本に則り文章を作成し、書き方の型を身につける。							
学修成果							
シナリオ作成に必要な基本ルールを身につけ今後の大学や企業における論文や資料作成ができるスキルを身につける。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	卒業研究とは何か テーマの探し方、情報収集の仕方と実践練習						
第2回	卒業研究の基本事項① 引用文の扱い方、文体、内容						
第3回	卒業研究課題設定の基本事項② 研究背景、目的、文章構成の方法						
第4回	卒業研究課題設定の基本事項③ 研究の進め方、展開方法						
第5回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「好きなこと1」						
第6回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「好きなこと2」						
第7回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「好きなこと3」						
第8回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「ニュース1」						
第9回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「ニュース2」						
第10回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「ニュース3」						
第11回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「講義内容1」						
第12回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「講義内容2」						
第13回	前回学習内容の復習 題材別研究テーマ設定「講義内容3」						
第14回	卒業研究課題作成の基本事項確認 テーマの決定						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
セミナー講師の教科書(著者:立石剛、出版社:かんき出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		卒業演習Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
セミナーシナリオを仕上げ、提出する。自らが選定したテーマについて、事実に基づいた客観的情報を基に多角的な観点からセミナー展開し、結論につなげる。							
講義概要							
本講義では個人が決めた卒業研究のテーマに基づき、必要な情報を収集し、オリジナルセミナー開催のためのシナリオを執筆する。講義の中では、テーマ研究に必要な情報収集の方法や、読む人を納得させるために必要な論拠に基づく論理展開の方法や必要なアプローチについて学習し、シナリオ作成に活かす。							
学修成果							
自らが決めた一つのテーマについて追及することを通し、集中力、継続力、忍耐力を身につける。セミナーシナリオの完成により自分を他者に伝えるための型を手に入れることができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	卒業研究テーマの確認と諸注意 スケジュールの確認・シナリオ作成						
第2回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と作成①						
第3回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と作成②						
第4回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と作成③						
第5回	初稿提出及び全体での講評会						
第6回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と校正①						
第7回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と校正②						
第8回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と校正③						
第9回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と校正④						
第10回	セミナーシナリオ作成のための情報収集と校正⑤						
第11回	セミナーシナリオの全体での講評会						
第12回	セミナーシナリオの最終校正①						
第13回	セミナーシナリオの最終校正②						
第14回	セミナーシナリオ最終稿提出						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
セミナー講師の教科書(著者:立石剛、出版社:かんき出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		卒業演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
高いプレゼンテーション力・企画書作成・パワーポイント作成・ニーズ調査等のアンケートなど、社会人として必要なコミュニケーション力、企画力、課題解決力などビジネス知識を実践に生かせるスキルの獲得を目指す。							
講義概要							
本講義では作成したセミナーシナリオを基に、卒業研究発表のためのスライドの作成及びプレゼンテーション準備を行う。「セミナー講師デビュー」をテーマにこの2年間の学びを活かし、人の心を動かし行動につなげるミニセミナーを実施し、専門学校の学びの集大成として一つの形にまとめる。							
学修成果							
講師としてのセミナー実施という目標に向かい、高いプレゼンテーション力・ターゲットに合わせた論理展開など、社会人として必要なコミュニケーション力、企画力、課題解決力などビジネス知識の実践を目指す。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	オリエンテーション 卒業研究発表会概要説明						
第2回	卒業研究発表のための個別作業 スライド作成上の注意①						
第3回	卒業研究発表のための個別作業 スライド作成上の注意②						
第4回	卒業研究発表会中間発表会						
第5回	卒業研究発表のための個別作業 発表スライド構成概要の提出						
第6回	卒業研究発表のための個別作業 発表スライド構成概要の見直し						
第7回	卒業研究発表のための個別作業 発表スライド構成概要最終提出						
第8回	卒業研究発表のための個別作業 発表準備①(プレゼンスキル:発話とジェスチャー)						
第9回	卒業研究発表のための個別作業 発表準備②(プレゼンスキル:発話とジェスチャー)						
第10回	卒業研究発表のための個別作業 発表準備③(プレゼンスキル:発話とジェスチャー)						
第11回	卒業研究発表スライド完成 卒業研究発表スライド初稿提出						
第12回	卒業研究発表会予行演習① 卒業研究発表スライドの内容見直しと校正						
第13回	卒業研究発表スライド作成 卒業研究発表スライドの最終校正						
第14回	卒業研究発表会 卒業研究発表の評価とフィードバック						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
セミナー講師の教科書(著者:立石剛、出版社:かんき出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンス					
学年		2年					
科目名		情報処理Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員		竹内瑞樹					
到達目標							
・論理的な業務フロー作成スキルの基礎を、ゲーム型ワークを通じて身につける。 ・業務フローを自動化する技術を、BizRobo!を使って実際に体験しながら習得する。 ・デジタル業務設計力と実装力を養い、即戦力の基礎を築く。							
講義概要							
本講義では、業務自動化を担う人材として必要な論理的思考力と実践的スキルの習得を目的とし、前半ではアナログ教材ゲーム型ワークを用いて業務フローの構造理解と設計力を養成し、後半ではRPAツール「BizRobo!」を使用して実際の業務を自動化するロボットの開発技術を学びます。 前半のゲーム側ワークでは、繰り返し処理、条件分岐、変数、関数といった論理的構造を体感的に理解し、業務をロボットに伝えられる形で設計する力を育てます。後半では、Web入力、Excel・PDF処理、条件付き抽出、ファイル統合、日付や数式処理など、実務に即した自動化を段階的に実装し、最終的には自ら業務を分析・設計・開発するスキルを身につけます。							
学修成果							
・業務プロセスを構造的に把握し、フロー図として論理的に表現できる ・条件分岐や繰り返し処理、変数の考え方を理解し、業務設計に応用できる ・RPAの意義と活用分野を理解し、実際の業務における自動化の可否を判断できる ・RPAツール (BizRobo!) の基本操作を習得し、Web・Excel・PDFなどの連携処理を自動化できる ・条件判定・数式処理・日付操作などの応用スキルを用いて複雑な業務ロボットを開発できる ・実際の業務フローをもとに、要件定義からロボット開発・テストまでのプロセスを自走できる ・チームでの協働やプレゼンテーションを通じて、現場で求められるコミュニケーション能力や改善提案力を身につけられる							
事前学習							
不要							
事後学習							
学んだことの定着率を上げるため復習するのが好ましい。							
授業計画							
第1回	【イントロダクションと基本フローの作成】 目的: ゲーム型ワークの世界観・進め方を理解し、基本的な順次処理のフローを作成できるようになる。内容: ・ゲーム型ワークの概要と物語導入・使用するパネルやルールの説明・基本的な命令 (移動・配布など) による簡単な業務フローの作成・チームによるフロー構築演習 (ミニチャレンジ)						
第2回	【繰り返し処理 (ループ) の基本理解】 目的: 繰り返し処理の概念と使い方を学び、ループを用いたフローを作成できるようにする。内容: 繰り返し処理の解説 (定義・使用目的)・ループパネルの使用方法・ループ処理の体験演習 (例: 連続移動や配布処理)						
第3回	【繰り返し処理のミッションに挑戦】 目的: ループ処理を活用した課題をチームで解決する。内容: ・ループを活用した実践型ミッションに挑戦 (課題型ワーク)・より効率的なフロー設計を目指す・他チームの解法共有とフィードバック						
第4回	【条件分岐の理解と演習】 目的: 条件分岐 (if) 処理の仕組みを理解し、場合分けに対応できるようになる。内容: ・条件分岐の仕組みと例 (例: 患者の有無で処理変更)・条件分岐パネルの使い方・条件を使った実践演習						
第5回	【条件分岐ミッションに挑戦】 目的: 条件分岐を用いた業務フローの実践力を高める。内容: ・実践ミッション (患者の状態による処理分岐など)・判断に基づいた柔軟なフロー構築のトレーニング・他チームとの比較・改善案の共有						
第6回	【実業務フローの構築演習 (条件+ループ) ①】 目的: これまでの要素 (ループ・条件分岐) を統合して、現実的な業務の流れを表現する。内容: ・日常業務を題材にしたフローの作成・ループと条件分岐を取り入れた業務フロー作成						
第7回	【実業務フローの構築演習 (条件+ループ) ②】 目的: これまでの要素 (ループ・条件分岐) を統合して、現実的な業務の流れを表現する。内容: ・自身のアルバイトを題材にしたフローの作成・ループと条件分岐を取り入れた業務フロー作成・チーム発表と講評						
第8回	【関数の理解と演習】 目的: 処理のまとめ (関数) の概念を理解し、繰り返し利用可能な処理として設計できるようにする。内容: ・関数とは? (再利用性・保守性の観点から解説)・関数パネルの使い方・関数を使った演習						
第9回	【関数ミッションと変数の導入】 目的: 関数を活用した課題解決と、変数の基本的な役割を理解する。内容: ・関数活用型ミッション・変数とは? (データの保存と制御のための道具)・変数パネルの紹介						
第10回	【変数の活用演習と応用ミッション】 目的: 変数を用いた制御フローの設計力を身につける。内容: ・変数を使った数値管理や条件分岐の演習・応用ミッション: 変数の初期化、加算、条件による切り替えなどを含むシナリオ						
第11回	【変数応用ミッションとRPA対決用業務フロー作成】 目的: RPA模擬対決に向けた業務フロー設計を完成させる。内容: ・変数を活用した最終ミッション (複合処理)・次週以降の「人 vs ロボット」対決に使用する業務フローの設計・チーム別ドラフト発表と改善フィードバック						
第12回	【RPAとは? / BizRobo! の操作画面と用語解説 / 人 vs ロボット実演】 内容: ・RPAの概要と社会的背景・BizRobo! の基本構成・用語 (ロボット、ステップ、変数 等)・実演: 人 vs ロボット対決 (同じ業務を人とロボットで実行)						
第13回	【WEB入力と情報取得の自動化① (会員登録例 / 積立NISA演習)】 内容: ・フォーム入力と送信、画面遷移の扱い・会員登録フォームを例に操作体験・演習: 積立NISAシミュレーションサイトで自動入力・結果取得						
第14回	これまでの授業の振り返りと期末試験対策について						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)		内容			
定期試験		60					
期試験以外 (授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
ワーク用コマンドパネルとチーム用ホワイトボード							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンス					
学年		2年					
科目名		組織論 I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	佐藤由佳						
到達目標							
組織論の歴史の概要を学び、組織がどのように発展してきたのかを理解する。そのうえで、組織に自分が所属した際にどのように組織の一員として貢献し活躍できるようになるのかを考える。組織とは何かを言語化できるようになる。							
講義概要							
組織論の主要な理論や概念を通じて、組織の成り立ちや組織を構成するものを学ぶ。組織何のためにできていて、何のために存在するのか、その組織のなかでどのような活躍をすることを自分が求めているのか、又は求められているのかを考え、実践できるようにイメージをしていく。							
学修成果							
組織の歴史からどのような組織が自分に合い、自分の目指す組織はどのようなものなのか、就職活動の際に自分のキャリアと組織の関係を理解し、自分の納得できる組織に属し、活躍していく組織人としてのイメージができるようになる。							
事前学習							
前回講義の復習（配布資料の確認）							
事後学習							
小テストを振り返り、学んだ内容の重要なポイントを理解する。							
授業計画							
第1回	自己紹介、イントロダクション、組織とは						
第2回	組織論歴史概要①(テイラー、ファヨール)						
第3回	組織論歴史概要②(ウェーバー、官僚制、)、企業の事例に学ぶ						
第4回	組織論歴史概要③(メイヨー、バーナード、サイモン)						
第5回	組織論歴史概要④(コンティンジェンシー理論)、組織の権力の視点から考える						
第6回	オープンシステムとしての組織、クローズシステムとしての組織						
第7回	マクロ組織論とミクロ組織論の概要、どんなことを勉強するのか						
第8回	組織社会化、組織コミットメント、アイデンティティ						
第9回	組織社会化、新入社員の組織社会化、						
第10回	組織文化						
第11回	モチベーション①						
第12回	モチベーション②						
第13回	モチベーション③						
第14回	前期試験前総復習						
第15回	前期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		10	発表など				
教科書							
配布資料を使用							
参考書							
配布資料を使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンス					
学年		2年					
科目名		組織論Ⅱ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	佐藤由佳						
到達目標							
組織論の歴史の概要を学び、組織がどのように発展してきたのかを理解する。そのうえで、組織に自分が所属した際にどのように組織の一員として貢献し活躍できるようになるのかを考える。組織論の集大成として組織論で学んだ内容を用いて自分がこれから属する集団でどのような貢献をしていきたいかを発表できる。							
講義概要							
組織論の主要な理論や概念を通じて、組織のなかでの人がどのように成長するのか、組織体制はどのように構成されているかを学ぶ。組織のなかでどのような活躍をすることを自分が求めているのか、又は求められているのかを考え、実践できるようにイメージを深めていく。							
学修成果							
組織の歴史からどのような組織が自分に合い、自分の目指す組織はどのようなものなのか、就職活動の際に自分のキャリアと組織の関係を理解し、自分の納得できる組織に属し、活躍していく組織人としてのイメージができるようになる。							
事前学習							
前回講義の復習（配布資料の確認）							
事後学習							
小テストを振り返り、学んだ内容の重要なポイントを理解する。							
授業計画							
第1回	イントロダクション、組織Ⅱの概要						
第2回	リーダーシップ①						
第3回	リーダーシップ②						
第4回	リーダーシップとモチベーションの関係						
第5回	キャリアとは、組織のなかでの個人の成長						
第6回	組織学習①						
第7回	組織学習②						
第8回	組織構造論①						
第9回	組織構造論②						
第10回	サステイナブル経営						
第11回	人的資源管理論、労働法規						
第12回	組織論で学んだことを活かして自分の入りたい会社・学校などの組織でどのような行動で貢献していきたいかやリーダーシップなど、授業で学んだ理論を用いて発表						
第13回	組織論で学んだことを活かして自分の入りたい会社・学校などの組織でどのような行動で貢献していきたいかやリーダーシップなど、授業で学んだ理論を用いて発表						
第14回	後期試験前総復習						
第15回	後期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		10	授業内発表と最終発表など				
教科書							
配布資料を使用							
参考書							
配布資料を使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		消費者行動論					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
人間心理に基づいた購買行動を理解することで、今後の仕事における顧客心理に基づいた応対や企画、普段の買い物や自身の学習計画の履行等で広く活用していくことを目標とする。							
講義概要							
人間の心理面に焦点をあて、市場で製品が売れる課程を理解していく。特に、その課程において企業や店舗がどのように関わっているのか、人が選択する際の「くせ」（不合理）を伝統経済学やマーケティング、行動経済学等幅広い視点から理解できる内容とする。							
学修成果							
1年次に学習したマーケティングや経済学、ホスピタリティを活用することで獲得した知識を再学習することで実践に活かすイメージを定着させる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	マーケティング基礎講義:1.0-4.0マーケティング比較						
第2回	ホスピタリティ基礎講義:顧客満足（インサイトを知る）						
第3回	経済学基礎講義:機会費用、希少性、代替え財等法則						
第4回	行動経済学講義①:伝統経済学の限界と違い						
第5回	行動経済学講義②:ヒューリスティックとシステムティック						
第6回	行動経済学講義③:プロスペクト理論とナッジ理論						
第7回	消費者行動①購買意思決定プロセスと事例紹介						
第8回	消費者行動②カラーマーケティングと事例紹介						
第9回	消費者行動③男女別マーケティングと事例紹介						
第10回	消費者行動④ニューロンマーケティングと事例紹介						
第11回	最新消費者行動①AIDMAとAISASの購買行動						
第12回	最新消費者行動②ECマーケティングとショールーミング						
第13回	最新消費者行動③2026年における消費者行動予測						
第14回	イノベーションと流行の関係、流行を作ろう						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
消費者行動論(田中洋、出版社:中央経済社)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		マーケティングサイエンスコース					
学年		2年					
科目名		時事研究Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	皆川由香						
到達目標							
・時事的な事象を多面的に取れえ信頼性のある情報の収集を得る力を養う。 ・情報を整理し、背景、原因、影響を分析、判断する力を養う。 ・他者との協働の中、課題研究を通し、視野を広げ吸収、統合の力を付けると共に、適切に発表、表現できる力を養う。							
講義概要							
・本講座では、現代社会で起きている国内外の時事問題を多角的に研究・考察することを目的とし、政治、経済、環境、国際関係、科学技術、文化、社会など幅広い分野のニュースを取り上げ、その背景や構造、影響について資料を用いて分析する。講義では、新聞や報道記事、公的データなどを読み解く力を養うとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、自らの意見を論理的に整理し発信する力を高める。現代社会に対する理解を深め、複雑な課題に対して主体的に考える態度を育成することを重視する。							
学修成果							
・探求力＝独自で時事問題を掘り下げ背景、原因、問題点を説明でき知識、理解力 ・分析力＝複数の資料、情報を構造的に分析する判断する力 ・協働、表現力＝適切な発表、わかりやすく伝える力、聞く姿勢（傾聴）力 ・成長力＝すべての学習を通し、主体的に取組む力							
事前学習							
・日頃から社会の出来事、ニュースや新聞(アプリ)をチェックし興味、関心を持つ。 ・「なぜ」「どうして」との視点を大事にし、考える習慣をつける。 ・課題に対し調査リテラシーの習得。							
事後学習							
・何を学び、どのような観点で捉えることができたか自己成長、改善点を記述。 ・他者からの学びをまとめ記録。 ・継続的な探求姿勢を保ち、新たな情報を探求し、学び続ける。							
授業計画							
第1回	ガイダンス 時事研究講義の目的・方法・意義について グループディスカッションの目的・意義・ルール確認						
第2回	政治 民衆主義1 歴史的背景、影響						
第3回	政治 民衆主義1 ポピュリズムの理解 世論の検証、力						
第4回	政治 民衆主義1 世界の民衆主義・民衆政治の検証、分析グループディスカッション実施(世界との比較)						
第5回	政治 民衆主義2 日本の選挙の仕組み 選挙への参加意義						
第6回	政治 民衆主義2 政治参加の意義グループディスカッション双方向フィードバック実施						
第7回	環境 災害1 災害を知る(映像放映) 災害の恐さ、災害の力						
第8回	環境 災害2 自然災害と人為災害を分析 グループディスカッション実施						
第9回	環境 災害3 災害の原因・要因を探る 避難確認 災害時の対応						
第10回	環境 災害4 未来への被害想定の見直し グループディスカッション双方向フィードバック実施(世界の取組)						
第11回	環境 地球温暖化1 地球温暖化背景、歴史 課題(問題) 警鐘 映像から見る温暖化						
第12回	環境 地球温暖化2 地球環境問題＝オゾン層破壊						
第13回	環境 地球温暖化3 地球環境問題＝森林と砂漠化現象						
第14回	環境 地球温暖化4 地球環境問題＝生物多様性の今						
第15回	環境 地球温暖化5 未来への目標、課題、行動・持続可能な開発目標(SDGs)グループディスカッション実施(世界規模で活動・比較)						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	提出課題(レポート、振り返りシート) 授業態度				
その他		20	グループディスカッション(参加度、主体的な態度、対応)				
教科書							
参考書							
・日本経済新聞・朝日新聞電子版・NHKニュース特番 ・ニュース検定(公式テキスト&問題集)2025「毎日新聞社出版」 ・ライブ！公共2024「帝国出版社」・時事用語「月間新聞ダイジェスト」							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		マーケティングサイエンスコース					
学年		2年					
科目名		時事研究IV					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	皆川由香						
到達目標							
・時事的な事象を多面的に取れえ信頼性のある情報の収集を得る力を養う。 ・情報を整理し、背景、原因、影響を分析、判断する力を養う。 ・他者との協働の中、課題研究を通し、視野を広げ吸収、統合の力を付けると共に、適切に発表、表現できる力を養う。							
講義概要							
・本講座では、現代社会で起きている国内外の時事問題を多角的に研究・考察することを目的とし、政治、経済、環境、国際関係、科学技術、文化、社会など幅広い分野のニュースを取り上げ、その背景や構造、影響について資料を用いて分析する。講義では、新聞や報道記事、公的データなどを読み解く力を養うとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、自らの意見を論理的に整理し発信する力を高める。現代社会に対する理解を深め、複雑な課題に対して主体的に考える態度を育成することを重視する。							
学修成果							
・探求力＝独自で時事問題を掘り下げ背景、原因、問題点を説明でき知識、理解力 ・分析力＝複数の資料、情報を構造的に分析する判断する力 ・協働、表現力＝適切な発表、わかりやすく伝える力、聞く姿勢（傾聴）力 ・成長力＝すべての学習を通し、主体的に取り組む力							
事前学習							
・日頃から社会の出来事、ニュースや新聞(アプリ)をチェックし興味、関心を持つ。 ・「なぜ」「どうして」との視点を大事にし、考える習慣をつける。 ・課題に対し調査リテラシーの習得。							
事後学習							
・何を学び、どのような観点で捉えることができたか自己成長、改善点を記述。 ・他者からの学びをまとめて記録。 ・継続的な探求姿勢を保ち、新たな情報を探求し、学び続ける。							
授業計画							
第1回	ガイダンス 時事研究講義の目的・方法・意義について グループディスカッションの目的・意義・ルール確認						
第2回	政治 民衆主義1 歴史的背景、影響						
第3回	政治 民衆主義1 ポピュリズムの理解 世論の検証、力						
第4回	政治 民衆主義1 世界の民衆主義・民衆政治の検証、分析グループディスカッション実施(世界との比較)						
第5回	政治 民衆主義2 日本の選挙の仕組み 選挙への参加意義						
第6回	政治 民衆主義2 政治参加の意義グループディスカッション双方向フィードバック実施						
第7回	環境 災害1 災害を知る(映像放映) 災害の恐さ、災害の力						
第8回	環境 災害2 自然災害と人為災害を分析 グループディスカッション実施						
第9回	環境 災害3 災害の原因・要因を探る 避難確認 災害時の対応						
第10回	環境 災害4 未来への被害想定の見直し グループディスカッション双方向フィードバック実施(世界の取組)						
第11回	環境 地球温暖化1 地球温暖化背景、歴史 課題(問題) 警鐘 映像から見る温暖化						
第12回	環境 地球温暖化2 地球環境問題＝オゾン層破壊						
第13回	環境 地球温暖化3 地球環境問題＝森林と砂漠化現象						
第14回	環境 地球温暖化4 地球環境問題＝生物多様性の今						
第15回	環境 地球温暖化5 未来への目標、課題、行動・持続可能な開発目標(SDGs)グループディスカッション実施(世界規模で活動・比較)						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	提出課題(レポート、振り返りシート) 授業態度				
その他		20	グループディスカッション(参加度、主体的な態度、対応)				
教科書							
参考書							
・日本経済新聞・朝日新聞電子版・NHKニュース特番 ・ニュース検定(公式テキスト&問題集)2025「毎日新聞社出版」 ・ライブ！公共2024「帝国出版社」・時事用語「月間新聞ダイジェスト」							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		企業リサーチ I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
企業の行っているブランディング活動を理解することができ、それを自身に置き換えブランドと定義づけをし、自己理解を深め、今後の自己成長につなげる。							
講義概要							
本講義の目的は2つある。まず、ビジネス学習として企業におけるブランドの定義や成り立ち及びブランディング活動の理解をすること。その理解を通じて、自信をブランドに置き換え自己分析をし、パーソナルブランドを確立することの2つを目的とする。							
学修成果							
企業活動としてのブランディングを理解することができる。自身をブランドに置き換え価値あるものとして自己肯定感を高められる。自身の今後の活動に活かすことができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	ブランドとは①:ブランド概念の導入と定義づけ						
第2回	ブランドとは②:ブランディングとマーケティングの違い						
第3回	ブランドとは③:ブランド価値とブランドメリット						
第4回	ブランディング①ブランドの旗を立てる(何を売りにするか)						
第5回	ブランディング②環境を知る(PEST分析)						
第6回	ブランディング③3C分析(自社分析、資産を知る)						
第7回	ブランディング④3C分析(顧客分析、ターゲティング、ペルソナ分析)						
第8回	ブランディング⑤3C分析(他社分析、ポジショニングマップ作成)						
第9回	ブランディング⑥ブランドアイデンティティの設定						
第10回	ブランディング⑦ロゴとブランドカラー、タグライン設定						
第11回	ブランディング⑧ブランドネーミングとプライシング						
第12回	ブランディング⑨ブランド管理(アウターブランディングとインナーブランディング)						
第13回	ブランディング⑩ブランド管理(ブランドメンテナンス)						
第14回	発表:パーソナルブランディング宣言						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
ブランディングの教科書:ブランディングの理論と実践がこれ1冊でわかる(羽田康祐、出版社:NextPublishing Authors Press)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		接客外国語 I					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
サービス接客検定3級の合格を第一の目標とする。また、サービス接客検定知識を身につけることで、会計時や開店時など場面に 応じてお客様への適切な対応をすることができ、人間関係を円滑にして、活躍ができる。							
講義概要							
サービス接客検定3級取得を目指し、接客場面における従業員の役割を理解していく過程でサービス従事者としての基礎スキルや 一般知識、適切な行動を習得し、社会で愛される人柄育成に努める。そのため、前半をスライドを用いたマナー理解学習、後半を その回で学習した過去問題を使用する。							
学修成果							
サービス従事者としての考え方や立ち振る舞いがわかる。例えば、電話応対や受付、商品案内などサービス場面における基礎的 な接客応答だけでなく、相手を尊重する複雑な人間関係において適切な選択ができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	講義概要：サービス接客検定3級の合格基準の確認、「サービス従事者とは何か」を通した仕事イメージの形成						
第2回	サービススタッフの資質①（必要とされる要件）						
第3回	サービススタッフの資質②（従業の態度・行動）						
第4回	専門知識①（サービスの意義・機能・種類）						
第5回	専門知識②（サービスの商業用語・経済用語）						
第6回	サービス接客検定過去問題実践と解説及び実践ロールプレイ①						
第7回	一般知識（社会常識・時事問題全般の理解）						
第8回	対人技能①人間関係（接客に必要な知識とマナー）						
第9回	対人技能②話し方（接客用語や敬語を用いての対応）						
第10回	実務技能①クレームなどの問題処理・環境整備						
第11回	実務技能②金品の管理・社交儀礼の業務対応						
第12回	記述対策①絵を見て対応の適当・不適当応答問題事例						
第13回	記述対策②状況に合わせた張り紙、案内の作成問題事例						
第14回	サービス接客検定過去問実践と解説及び実践ロールプレイ②						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		70					
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		30					
その他		0					
教科書							
ユーキャンのサービス接客検定3級・2級・準1級（著：ユーキャンサービス接客検定研究協会、出版社U-CAN）							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティングサイエンスコース					
学年		2年					
科目名		メディアリテラシー I					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	滝口 直樹						
到達目標							
ビジネス現場におけるシステムの役割を理解し、システム運用者として必要な知識や振る舞いを習得する。 企業におけるIT戦略の位置づけや将来性について理解し、具体的なシステムの活用イメージを理解する。							
講義概要							
情報処理技術者試験「ITパスポート」の内容を中心に、情報デザイン、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティなどを学びます。 また、時事問題(ニュースや技術動向)を随時取り上げて、社会の変化に対する感性を養います。							
学修成果							
ITを活用したビジネスに必要な技術的な知識を得る。また、ネットワークの仕組みを理解したうえで、安全な情報の取り扱いに必要なセキュリティの運用知識を得る。							
事前学習							
配布資料の予習・復習							
事後学習							
キーワードの暗記							
授業計画							
第1回	「情報デザイン」 情報デザインの考え方、ユニバーサルデザイン						
第2回	「画面設計」 インターフェース設計、Webデザイン						
第3回	「情報メディア1」 マルチメディアの概要、静止画ファイル形式						
第4回	「マルチメディア2」 動画ファイル形式、ファイル圧縮方式						
第5回	「データベース1」 データベースの基礎知識、RDBMSの設計、データの正規化						
第6回	「データベース2」 データ操作、DBMSの機能						
第7回	「小テスト・解説」 情報デザイン、情報メディア、データベースの小テストおよび解説						
第8回	「ネットワークの基本」 ネットワークの種類						
第9回	「LANの構成」 LAN構成機器(モデム・ルータ・ハブ等)の理解						
第10回	「インターネットのしくみ」 インターネット技術(TCP/IP)						
第11回	「人的脅威と対策」 人的脅威、人的セキュリティ対策						
第12回	「物理的脅威と対策」 物理的脅威、物理的セキュリティ対策						
第13回	「技術的脅威」 技術的脅威、マルウェアやその他の攻撃						
第14回	「技術的セキュリティ対策」 マルウェア対策、機器保全対策、暗号化						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合 (%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
「ゼロから始めるITパスポートの教科書」(とりい書房)							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	皆川由香						
到達目標							
現在の少子高齢化をはじめとした日本の諸問題に対して深く理解をし、自身が将来の日本でどう生きるかを考え準備をすることできることを目標とする。							
講義概要							
本講義の目的は国内の時事問題に焦点を当てて、少子高齢化をはじめとした日本の抱える諸問題についての理解を深め、視野を広げた上で日本の将来を具体的に予測し解決策を模索、日本社会を生き抜くためにどう行動すべきかの準備をする講義である。							
学修成果							
日本の少子高齢化をはじめとした諸問題における時事知識を理解し、その知識をインターネット等メディアを利用し情報収集できる。それを就職活動や社会で活かすことができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	日本における諸問題①旧安倍内閣政府目標より日本現状を考える						
第2回	日本における諸問題②選挙制度と18歳成人						
第3回	日本における諸問題③子育て制度と出産問題						
第4回	日本における諸問題④高齢化に伴う年金・医療問題						
第5回	日本における諸問題⑤教育と不登校における今後						
第6回	日本における諸問題⑥外国人労働者の増加と教育						
第7回	日本における諸問題⑦自殺問題とストレス疾患						
第8回	日本における諸問題⑧働き方改革とワークライフバランス						
第9回	日本における諸問題⑨男女格差と世界との比較						
第10回	日本における諸問題⑩震災の歴史と今後への備え						
第11回	日米比較ハワイオンライン講義①日米文化の違い						
第12回	日米比較ハワイオンライン講義②政治と死刑制度						
第13回	日米比較ハワイオンライン講義③最新時事比較						
第14回	今後への提言:日本の未来への一石を投じる発表						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
2025年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」入門編(著:日本時事能力検定協会監修、出版社:毎日新聞出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	皆川由香						
到達目標							
現在のSDGs17の目標に基づく日本の諸問題に対して深く理解をし、住みやすい日本にするためにどう行動すべきかを考えることを目標とする。							
講義概要							
本講義の目的はSDGsに焦点を当てて、17の目標に基づき、日本の抱える諸問題についての理解を深め、視野を広げた上で日本の将来を具体的に予測し解決策を模索、住みやすい日本にするためにどう行動すべきかの準備をする講義である。							
学修成果							
日本のSDGs17の目標に基づく諸問題を理解し、その知識をインターネット等メディアを利用し情報収集できる。それを就職活動や社会で活かすことができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	日本における諸問題①SDGs17の目標について考える						
第2回	日本における諸問題②SDGsとMDGsの違い						
第3回	日本における諸問題③SDGsナマケモノでもできるアクションガイド						
第4回	日本における諸問題④持続可能なエネルギーについて						
第5回	日本における諸問題⑤SDGsに関する政府取組みについて						
第6回	日本における諸問題⑥SDGs17の目標より(環境)						
第7回	日本における諸問題⑦SDGs17の目標より(教育)						
第8回	日本における諸問題⑧SDGs17の目標より(健康と福祉)						
第9回	日本における諸問題⑨SDGsサステナブル商品事例						
第10回	日本における諸問題⑩SDGs政府の取り組むアクションプラン						
第11回	日本における諸問題⑪SDGs個人のできるアクションプラン						
第12回	日本における諸問題⑫SDGs企業のできるアクションプラン						
第13回	日米比較ハワイオンライン講義:SDGsへの取り組み						
第14回	今後への提言:私のSDGsアクションプラン発表						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
2025年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」入門編(著:日本時事能力検定協会監修、出版社:毎日新聞出版)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		特別演習Ⅲ					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
統計学検定4級の合格を第一の目標とする。統計に知識を身に着けることで、収集したデータを活用することができるようになる。具体的には仕事場においてアンケート調査等の結果分析や予測することができる。							
講義概要							
統計学検定4級の合格を目指し学習をする。目標を明確にすることで、統計に関する基礎学力をアップさせ、データを読み取り、論理的に考える近頃の獲得を目指す。また、ケーススタディを繰り返し、ビジネス場面における活用イメージを持つ。							
学修成果							
統計に関する知識を身に着け、収集したデータを活用できる。ケーススタディより実際のビジネス場面における活用イメージを持つ。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	講義概要:統計学検定4級の合格基準の確認、「データ活用」における仕事イメージの形成						
第2回	ブレースメントテスト(統計学検定4級過去問題とFB)						
第3回	データの種類(質的変数と量的変数)						
第4回	グラフの種類(各グラフ名称と特徴及びグラフ表現)						
第5回	量的変数の要約方法①(度数分布とヒストグラム)						
第6回	量的変数の要約方法②(分布特徴の把握)						
第7回	変数データの分析①(代表値、尺度種類について)						
第8回	変数データの分析②(平均値、分散、標準偏差について)						
第9回	変数データの分析③(相関係数と因果関係について)						
第10回	回帰直線と予測(回帰分析と最小二乗法)						
第11回	確率(事象と確率及びベイズの定理)						
第12回	確率変数と確率分布(正規分布の特徴)						
第13回	統計的な推測(区間推定及び仮説検定)						
第14回	データ収集と実践						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 データの活用(編:日本統計学会、出版社:東京図書)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		特別演習Ⅳ					
開講期	2025年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15
担当教員	沢井裕						
到達目標							
会社で仕事をする際のマーケティング知識の活用、アンケート調査や議論、発表などのコミュニケーション力、スライドや企画書を作るスキル等実践活用を目指す。							
講義概要							
本講義は企業リサーチⅠで学習したブランディングの実践を目的とし、学校のリブランディングをテーマとする。ブランディングを実践する際に使用する3C分析やPEST分析などのマーケティング知識、アンケート作成やインタビュー、企画書作成など実際のブランド作成のイメージができる内容とする。							
学修成果							
具体的にブランディング知識を実践で利用できる。マーケティング講義で学習した3C分析やポジショニングマップなどを使用してターゲット選定等ができる。プレゼンテーション講義で学習した効果的な提案ができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
講師が指定場所にアップした講義スライドや講義資料を見直し復習しておく。60分程度							
授業計画							
第1回	ブランディング復習①ブランド定義とブランドアイデンティティ						
第2回	ブランディング復習②ブランド準備(3C分析とポジショニング、戦略の決定)						
第3回	ブランディング復習③ブランド形成(インナーブランディングとアウトターブランディング)						
第4回	ブランディング復習④ブランドデビュー後(ブランド管理)						
第5回	ブランド事例学習①ホスピタリティブランド(リッツカールトンホテルとオリエンタルランド)						
第6回	ブランド事例学習②見上げるブランドと親しみあるブランド(高級ブランドと庶民ブランド比較)						
第7回	ブランディング実践①アンケート及びインタビュー内容作成(質問紙法、クローズド・オープンクエッション)						
第8回	ブランディング実践②アンケート・インタビュー(在校生や教職員向け)						
第9回	ブランディング実践③収集した情報より資産、イメージ確認の上3C分析						
第10回	ブランディング実践④ブレンストーミング会議にてブランドアイデンティティ決定						
第11回	ブランディング実践⑤リブランディング会議①(ブランドイメージの決定)						
第12回	ブランディング実践⑥リブランディング会議②(企画書の作成)						
第13回	ブランディング実践⑦リブランディング発表準備(企画書、スライド作成)						
第14回	リブランディングコンテスト(教職員向け)						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書配布せず適宜講義資料を配布しながら授業を行う							
参考書							
超実践！ブランドマネジメント入門(著者:上條憲二、出版社:ディスカバー・トゥエンティワン)							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		マーケティング・サイエンスコース					
学年		2年					
科目名		企業統治論Ⅰ（他学科借り入れ）					
開講期	2025年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15
担当教員	白石一憲						
到達目標							
経営陣を監視するステークホルダーの役割責任とは何か？その中でも特に株主や社外取締役と経営陣の利害関係を把握した上で、企業統治の有効性と課題を理解できるようにする。							
講義概要							
2006年の商法改正で企業統治が法制化され、2015年にコーポレートガバナンス・コードが設定された。このように比較的新しい仕組み・制度であり、本講義では様々な実例を交えて、経営陣の暴走はなぜ起こるのか？企業としてどのように取り組むべきか、という基本的な考え方を学ぶ。							
学修成果							
就職活動を行う際に検討先の企業のコーポレートガバナンス体制を調べることで、その企業のガバナンス体制がどの程度しっかりしたものになっているかを判断することができるようになる。							
事前学習							
前回の授業内容を復習した上で次の授業に出席する							
事後学習							
不明点や疑問などを整理し次の授業で質問・確認する							
授業計画							
第1回	「企業統治論概要」 ステークホルダーとは誰か？その役割責任は何か？						
第2回	「企業を支配するのは誰か？」 株主支配論、経営者支配論、金融支配論の論点について						
第3回	「企業の不祥事Ⅰ」 東芝の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第4回	「モラルハザード」 株主と経営陣の利害関係の対立について						
第5回	「エージェンシー理論」 モラルハザードが起きる要因は何か？						
第6回	「前半講義の振り返り」 これまでの講義内容のまとめ（中間試験に向けた準備）						
第7回	「中間テスト」 第1回～第5回の講義内容の理解度を確認する						
第8回	「リスクマネジメント」 モラルハザードに対するリスクマネジメントとは						
第9回	「企業の不祥事Ⅱ」 日産自動車の経営陣の不正はなぜ見逃されたのか？						
第10回	「上場企業のガバナンス体制」 ガバナンスコードと上場について						
第11回	「非上場企業のガバナンス体制」 非上場企業のガバナンス体制とその効果について						
第12回	「海外のコーポレートガバナンス①」 アメリカ・ドイツ・北欧諸国のガバナンス体制						
第13回	「海外のコーポレートガバナンス②」 韓国・中国のガバナンス体制						
第14回	「これまでの講義内容のまとめ」 中間テスト以降の講義内容の振り返り						
第15回	「期末試験」 企業統治の実際と課題に関する理解度を確認する						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60	期末テストの点数				
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	中間テストの理解度、授業の参加度、出席率				
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
新聞、ビジネス雑誌などから適宜引用							